

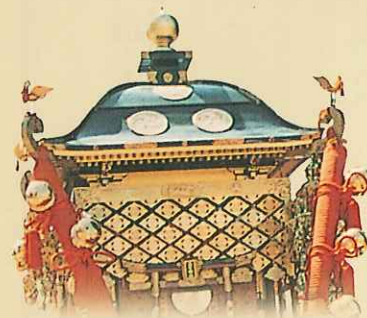
西宮
えびす



平成14年
夏号

西宮
えびす

平成14年
夏号



編集室から

今年は気候が温暖なためか、桜の便りや新緑の訪れが早かったようです。えびすの森の青葉若葉が目にしみる5月の初頭に連日斎行されました太々神楽祭も無事終えることができました。特に4日の日供講社・6日の諸国講社・10日の本えびす講社の神楽祭へは過去最高の崇敬の方々にお越し頂くことができました。講という古くからの崇敬組織を発展させていく為には、幾多の困難もありますが、今後もより一層講員の皆様と神社との絆を深めていく努力をしていかなければなりません。

本号は「西宮まつり」特集ということで、歴史的側面と写真によるビジュアル的な紹介を試してみました。是非、今秋には実際の時代絵巻をご覧頂ければとお待ち申し上げます。また新しい祭りの発展形として大学単位での参加が増え、文教都市西宮に相応しいお祭りになっていけばと思います。

(英)

西宮えびす平成14年夏号(通巻第17号)

平成14年6月1日発行

発行/西宮神社

〒662-0974

兵庫県西宮市社家町1-17

TEL0798-33-0321

FAX0798-33-5355

印刷/小西印刷所

お知らせ

夏越しの大祓(6月30日)午後4時

知らず知らずのうちに身についた厄を6月と12月の末日に行われる大祓式で祓い清めます。6月(水無月)の大祓式は「夏越しの大祓」ともいわれ、暑い夏を越すために欠くことのできないものです。人形でお祓いをした後、大茅輪くくりが行われます。



当日ご参拝に
なられない方は、
人形を6月29日ま
でにご返送頂け
れば、大祓式でお祓いをして、
おさがりとして「茅輪」「大祓札」
を授与いたします。

※人形をご希望の方はお知らせ下さい。



誓文祭(11月20日)午前10時

新春のお願い事に対して、秋には感謝のお祭り
をします。これを誓文祭といい、百貨店や昔ながら
の商家で行われているせいもん払いやえびす講と
いう行事がその名残です。当社では、正月初詣・



十日えびす大祭
をお願いなさいま
したことに對して
の感謝の祭典と

いたしまして、11月20日午前
10時から「誓文祭」を齋行い
たします。誓文祭にご奉賛の
方へは、おさがりとして「誓文札」
を授与いたします。



歴史

NISHINOMIYA - MATSURI

【古文書にみる記録】



昭和29年に再興当時の陸渡御



平成十二年九月二十二日に約四百年ぶりに再興された海上船渡御。その起源はわかりませんが、古文書を紐解くと約八百年前に遡ることが出来ます。

◆治承四年(一一八〇)

「山槐記」(中山忠親)

八月二十二日戌の刻(午後八時頃)に西宮の宿所に着いた。今日は西宮の神輿が和田岬まで渡御があつて、ちようと御本宮に還御された。土地の人は「オレソキ」と和田で御被があつた。

◆正応二年(一一八九)

「一遍上人絵伝」

八月二十二日、上人臨終に当たり、折りしも今日西宮の神輿が和田岬に御幸があるので、わが命を一日のばして西宮神主に十念を授けられた。

◆応永二十年(一四一四)

「白川神祇伯資忠王記」

八月二十二日未明伏見より西宮へ下向、申の刻(午後四時頃)に到着。今日は兵庫までの御幸である。還幸以前に宿所に落着き、酉の刻(午後六時頃)に還御になった。

◆元龜二年(一五七二)

「西宮殿年中御神事」

八月二十二日に「大輪田御神事」とあり。恒例の西宮より和田岬への御神事を指すのであろう。

◆寛永十二年(一六三四)

「四月二十八日覚え書」

西宮神主吉井良重、平田兼家らが幕府に提出した覚え書きに「昔は一年に七十五度の神事があり、中でも大神事は八月二十二日の兵庫和田岬への神幸で、産宮参りと申し慣わしていた。神人、氏子が軍陣の出立に借を仰せつかったが、信長公よりの社領が無いので日本第一のまつりを事やめしまった云々」とあり、これを機に中断してしまつたのである。



神幸海上図(西宮大神本紀)



和田岬御旅所祭典図(西宮大神本紀)



■清盛塚



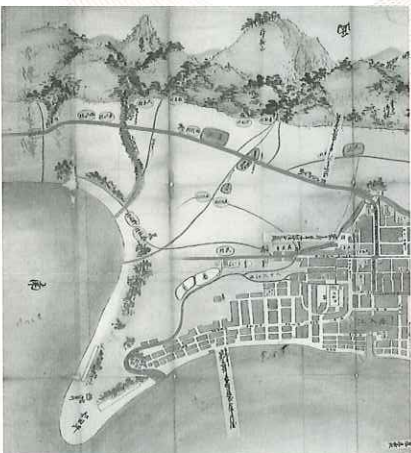
■蛭子神社



■三石神社



一遍上人と西宮の神主との出会い(国宝・一遍上人絵伝)



文久2年(1862)改兵庫津之図

※和田岬への神幸は、旧暦の八月二十二日に行われていたため、明治より新暦の九月二十二日に例祭を斎行。

「西宮まつりとは」

平成十二年に震災復興記念として約四百年ぶりに再興された海上船渡御と九月二十二日の例祭、昭和二十九年に再興された陸渡御、神賑行事をあわせて九月二十一日から二十三日までのお祭りを西宮まつりと名付けました。

江戸時代に編纂された西宮神社の年中行事を絵巻物で綴った「西宮大神本紀」の詞書によると「行きは、幾艘もの船を海上所狭しと連ね、その飾りの旗や幕の様はまるで花紅葉を波間に浮べたようだ」と記されています。

和田岬の仮宮では、時季の花を飾り、鼓笛を鳴らして舞いなどを奉納した後、復路は馬を連ねて陸路六里(約二十四km)をその日の内に帰ってくることを産宮参りと言っていたようです。



■和田神社



■真光寺

神幸の起源は明かではありませんが、仁安二年(一一六七)に太政大臣になった平清盛が大輪田ノ泊(兵庫港)を修築、治承四年(一一八〇)に福原

に遷都した時期と古文書における神幸の初出記事の時期が一致することから神助を願う平清盛の神幸の要請説や御前浜とも称された西宮の海浜から神戸へかけての権益の及ぶ範囲の神威の誇示とも考えられます。

和田岬には、今も神幸に縁のある三基の神輿を置く三つの石があつたと伝わる三石神社や蛭子の森とも称され、西宮から来た神輿の休息所であつたと伝えられる和田神社があります。今は柳原のえびさんとして知られている蛭子神社も元は、もう少し南方の西宮内にあつた神輿の休憩所で、神幸を終えた神輿がこれより街道を東へ還御していたと伝えられています。又、和田岬から西宮の街道沿いには御茶屋所という地名が幾つか残っていますが、これは還御の際に神輿が休息をするところであつたようです。

正応二年(一一八九)八月、時宗の開祖一遍上人が真光寺に滞在中、危篤になつたが、二十二日が西宮の神幸と聞いて臨終の日を一日延ばし西宮の神主に面会、十念を授けたと国宝「一遍上人絵伝」に記されています。



9月21日

宵宮祭

西宮まつりの開催を奉告し、無事安全を祈願する宵宮祭が行なわれた後、子どもみこしが浜脇中学校のプラスチック・バントアラを先頭に元気に練り歩きます。

- ◆宵宮祭(午後5時)
- ◆子どもみこし(午後5時半)



西宮ま



一年に一度西宮まつり。祭祀は厳修され、勇壮なだんじり巡行。響き渡る鳴り物が祭を盛り上げて行く。先祓の神職に引き続き保護者と共に歩くお稚見さん達。笑顔が愛らしい。この日の為に修練を重ねた様々な演芸が繰り広げられる。

9月22日

西宮神社例祭

午前10時より本殿にて古式に則り厳肅裡に例祭が斎行され、午後からは神社周辺を稚見行列やだんじりが巡行。夕刻には境内特設ステージに於いて演芸の奉納等、趣向を凝らした様々な神賑行事が行われます。

- ◆例祭(午前10時)
- ◆稚見行列(午後2時)
- ◆だんじり巡行(午後4時)
- ◆奉納演芸会(午後6時)



9月23日

みこし渡御

みこしに神様をお遷しし、童男・八乙女・供奉行列と共に午前中は神社周辺を巡幸する陸渡御が、午後は新西宮ヨットハーバーから飾り船に遷り、海上を巡幸する船渡御が行なわれます。特に海上船渡御は、戦国時代に途絶えていたものを平成十二年に約四百年ぶりに復興したお祭りで、優雅な時代絵巻を繰り広げます。

- ◆発興祭(午前10時)
- ◆お旅所祭(午後12時20分)
- ◆出港「遷御」(午後2時)
- ◆入港「遷御」(午後3時30分)
- ◆還御祭(午後4時30分)



9月23日

かざまつり

西宮まつり

NISHINOMIYA - MATSURI



にしの宮に神民の船にほごさかきして
ぬされうとい物とりて、風のいのりする

柴小船 真帆にかざまつりせ ちゅうあいでて
にの宮人かざまつりて

この歌は、平安時代後期の歌人 源俊頼(二〇五五—一二二九)の歌集「散木奇歌集」に掲載されているもので、掛軸か何かに描かれている情景を見て詠まれたものと思われるが、西宮の神職が柴でできた小船の帆っぱいに風を受けながら「かざまつり」をしているさまが窺えます。昔は帆船のため風まかせの航行をしており、何か障りがあると幣を奉つたりしてお祈りをしたようです。御前浜(西宮の海)は、風が強くと、西宮の神は風をふかす神として恐れられていたようです。この歌がいつ詠まれたかはわかりませんが、源俊頼は大治四年(三二九)に亡くなっているため「西宮」の所見としては、最も古いもの一つです。

現在はこの「かざまつり」は海上の安全等を祈念して九月二十三日の西宮まつり海上船渡御の巡幸にあわせて行われています。船渡御行列の御座船に鉾神を立て、時季の花を飾り海上船渡御の途中、御前浜の沖で御座船・供奉船が船首を北に向け停泊、先祓船よりお祓いをした後、御座船の鉾神に献饌(供え物を献じる)・宮司祝詞奏上、引き続き雅楽の調べが流れる中、八名の八乙女が二隻の八乙女船の四方から海へ切腹をまいてかざまつりのお祓いを致します。お祓いの後、撤饌(供え物を下げる)を行い「かざまつり」が終了します。

星野 『阪神タイガース必勝祈願』

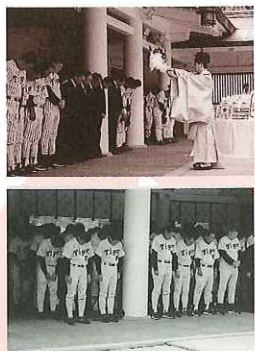
プロ野球界の話題を独占したかのように、キャンプからマスコミやファンの衆目を集めている阪神タイガース。古豪タイガースの復活に情熱を燃やして新たに監督に就任した星野仙一監督率いる新生タイガースの選手を始め役員一同がペナントレース開幕を三日後に控えた三月二十六日に恒例の必勝祈願に訪れました。

午前九時半、監督・選手らに乗せたバスが神社に到着する頃には、境内には星野監督やタイガースに復帰した田淵コーイチを一目見ようと集まったファンや報道陣の数は約千名で、地元警察署からは警備のため十五名の警察官が配備されるといっただかつてない雰囲気の中で必勝祈願祭が執り行われました。写真とは打って変わった神妙な面持ちで祝詞を聴いていた監督は、今年の好成績(優勝)を確信したのではないのでしょうか。

大勢のファンに見送られ

神社を後にした二行は、その日練習を行い、東京での開幕戦から七連勝したのはご承知の通りです。

次号では優勝奉告祭の模様をお伝えできることと確信しています。



夙川学院短期大学



大手前大学

お祭りを
ささえる人々



お祭りを
ささえる人々

渡御祭を肅行するに当り、みこしの担ぎ手やお手伝いに当社の氏子青年若戎会・世話人に加え氏子四校区自治会、安井地区体育振興会、西宮中央商店街、関西ヨットクラブ、新西宮ヨットハーバー、西宮市役所、鈴木油脂工業、甲南大学、関西学院大学、神戸商船大学、姫路工業大学、関西国際大学、神戸学院大学、甲南女子大学、武庫川女子大学、大手前大学、夙川学院短期大学の有志の方々にご協力を頂きました。

又大手前大学と夙川学院短期大学では、自作の幕のぼりで飾った伴走船で海上渡御行列にも加わりました。

南門石畳が新しく綺麗に



国道43号線に面した南門は、平成三年七月に高麗門様式に建て替えられましたが、門から国道までの長さ十六メートル・幅四メートルの石畳が、長年の重車両の往来や震災の影響によつて板石が割れ、いびつに凹凸が生じたりして、門の荘厳さに相応しくない傷み具合になってきた為、予てから全面改修を計画しておりましたが、今年一月の十日えびすが明けて早々、地元の石材店により改修工事が着工され、三月十五日に無事竣工しました。ピシヤン仕上げ百二十枚の白御影石を敷詰めた石畳は、左右の大灯籠と正面の南門とに調和し、訪れる人々は心地良い印象を覚えることでしょう。